15）落合靖一先生を偲ぶ

Dr. Seiichi Ochiai is Remembered

タナカ歯科　田中晃伸

Akinobu Tanaka, *TANAKA Dental Clinic*

日本における小児歯科のパイオニアである落合靖一先生が本年1月29日にご逝去された.

先生の生前のご功績は誰しもが知る所であるが，晩年ご指導いただいた演者が僭越ながら，再度，先生を偲びご経歴を含め紹介したい.

落合先生は昭和3年に東京日本橋の繊維問屋の長男として生まれ，昭和20年4月に東京医学歯学専門学校（現東京医科歯科大学）に進学された.

昭和24年に同校を卒業したが，元来文学青年であった先生は，大学病院に勤務のかたわら，青山学院大学英文科にも籍を置いていた.

アメリカによる日本の復興政策のひとつとして人材育成のためのフルブライト奨学生があるが，先生は昭和29年に歯科医として初めて合格し渡米することとなった.

渡米には現在横浜で記念係留されている氷川丸で行かれたとのことである.

渡米後はハーバード大学フォーサイス小児歯科研究所に入所したが，翌年にはイリノイ州立大学歯学部大学院に入学し，歯の形成・萌出で著明なマスラー教授のもとで学び，学問はもとより生活においてもよきアメリカを実感されたようである.

昭和31年に帰国され，東京医科歯科大学の小児歯科学教室の発展に貢献されるとともに，人材育成は当然ながら，小児歯科学に関する翻訳や著書の執筆活動，さらには学会の設立に奔走された.

執筆活動においては“小児歯科学（落合靖一訳：J. C. Brauer 著）”は当時の小児歯科学のバイブルと言っても過言ではないだろう.

昭和42年に大学を辞し，東京四谷に日本で初めて小児歯科専門医として開業されたが，当初は“落合小児歯科”ではなく“わかば歯科（落合小児歯科研究所）”であった.

これは当時まだ小児歯科を標榜ができなかった経緯からの苦肉の標榜名である.

また，学会の創設にご尽力された訳であるが，学会誌の発行においても先生の足跡があり，日本小児歯科学雑誌第1巻第1号第1編は落合先生が投稿された論文である.

昭和63年に日本小児歯科学会の認定医制度の導入とともにその第1号にもなっている.

以上のご経歴をみても小児歯科の創設・発展とともに歩まれてきたことが理解できる.

さらには小児歯科だけではなく，他の学会でも要職に名を連ねられた.

まさに戦後日本の歯科医学を築き支えたお一人であることは，誰しも疑うことはない.

多くのご友人達とも交友を重ね，後進を指導された先生であるが，平成8年に閉院引退された.

引退後は好きな文学に没頭され，平成23年には小説『魔曲の幻影』を出版されている.

さて，落合靖一先生の最も大きな功績は小児歯科医療の目的である「健全な咬合を誘導することが小児歯科の究極的目標である」すなわち『咬合誘導』という概念を確立したことにあり，この概念は今も小児歯科医療の確固たる目標とされている.